

# 委託事業実施内容報告書

## 平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

### 【日本語指導者養成】

受託団体名 財団法人福岡 YWCA

#### 1 事業の趣旨・目的

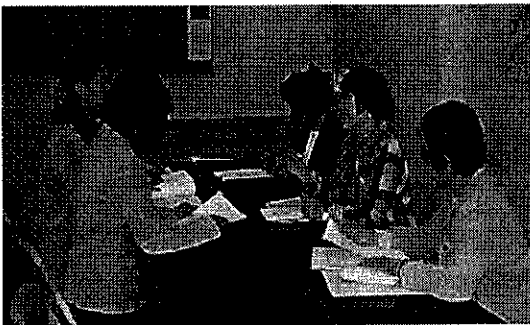
日本語を母語としない子どもたちのための日本語教室と学習支援を 2004 年より開催している。その事業を通じて、年少者への日本語指導に関わる教師、ボランティアの養成、スキルアップの場が求められていることがわかった。指導法だけでなく、子どもたちへの対人援助者としての部分も含めた年少者の日本語指導者を養成することを目的とする。

#### 2 企画委員会の開催について

##### 【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
10月5日	福岡 YWCA 会館	栗山昌子、江副史子、宮崎たね代、佐藤倫子、調幸子、野崎千代	講座の開講にあたって	・経緯説明 ・目的、講座ゴールの確認 ・内容検討 ・福岡県、福岡市の年少者への日本語教育について情報の共有
3月20日	福岡 YWCA 会館	栗山昌子、江副史子、宮崎たね代、佐藤倫子、調幸子、野崎千代	講座の振り返り	・講座全体の振り返り ・今後の講座へ向けて意見交換

##### 【写真】会議風景



### 3 養成講座の内容について

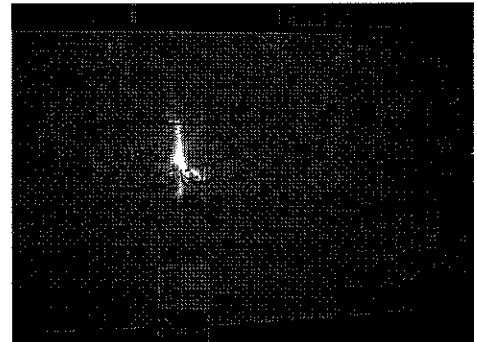
- (1) 養成講座名 日本語を母語としない子どものための日本語指導者養成講座
- (2) 養成講座の目標 年少者の日本語教育に関わる人の養成、スキルアップ
- (3) 受講者の総数 31 人(日本 31 人 受講実数)
- (4) 開催時間数(回数) 20 時間 (6回)
- (5) 参加対象者の要件 小中学校の日本語特別指導員(取り出し授業の指導者)  
日本語ボランティア教室の年少者担当者、  
そのほかの場で年少者の日本語指導実践者
- (6) 受講者の募集方法  
小中学校の日本語特別指導員への案内配信  
日本語ボランティア教室への案内配布
- (7) 研修会場 福岡 YWCA 会館
- (8) 使用した教材・リソース
  - ・あたらしいぶんけいさんすう、文型数学(中国帰国者援護基金)
  - ・日本語学級3 凡人社
  - ・日本語をまなぼう2、3(ぎょうせい)
  - ・とよなか国際協作成「子どもの日本語・学習支援 養成講座」
  - ・JSL カリキュラム
  - ・ケンとメリーのにほんご

### (9) 講座内容

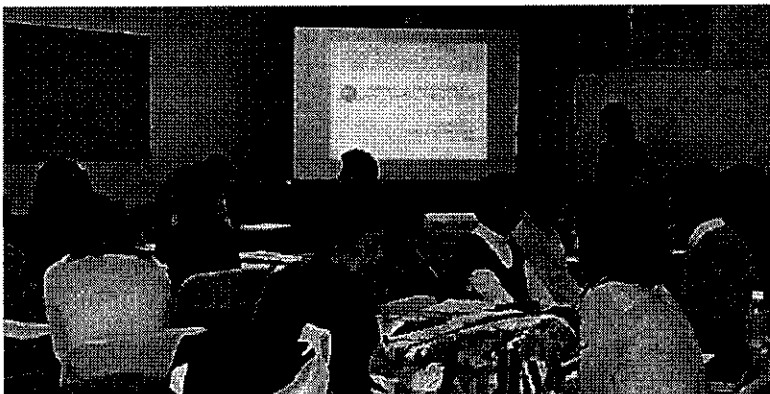
日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
11月27日3h 15:00～ 18:00	日本語指導の基礎知識/年少者日本語の現状	元福岡女学院大学教授 栗山 昌子	15名
12月11日3h 15:00～ 18:00	日本語指導について/ 日本語学校(成人)との違い	元福岡女学院大学教授 栗山 昌子	15名
1月22日3h 15:00～ 18:00	日本語指導について/ 導入、発展 教材紹介、使い方	元福岡女学院大学教授 栗山 昌子	13名
2月12日4h 15:00～ 19:00	小中学校の取り出し 授業と初期指導	九州大学留学生センター非常勤講師/文部科学省委託 「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」研究推進	31名

		委員	
2月26日4h 15:00～ 19:00	子どもたちが安心して勉強するために	(財)とよなか国際交流協会 専門職員	23名
3月12日3h 15:00～ 18:00	今後の取り組みについて	福岡教育大学非常勤講師/ 日本語教師/開発教育ファ シリテーター	13名

2月12日 初期指導を考える



2月26日 子どもたちが安心して勉強するために



(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート(回収 25名)

- \* 評価 とても役に立った(11) 役に立った(12) どちらともいえない(2)  
あまり役に立たなかった(0) 役に立たなかった(0)
- \* 参加 来年度あれば、また受講したい(18)

(指導法などについて)

- ・こどもの指導は大人ととても違うので言い換えが出来る能力が指導者に求められてい

ることを改めて感じました。

- ・授業の進め方など、大変参考になりました。
  - ・学習者の立場になって考えることは当然のことだと思うが、相手が子どもの場合どうしても、その視点が欠けてしまっている自分に気がついた。
  - ・小学校で指導員をしている。「時間割をもらう」「担任や周りの先生に協力を依頼する」などでさえ、どこまで正しいのか分からず不安でしたが、もっと積極的に周りを巻き込んでよいとわかりました。
  - ・「教科への橋渡し」という考えが欠けていたと気付きました。まずは中学でどのような事が求められているか知る必要があることがわかりました。
  - ・子どもがとびついてくるようなアイデアを作り出す事が大事だなとつくづく思いました。ヒントをたくさんありがとうございました。
  - ・教材をいろいろ知ったことが有難い。(あまり知らなかったので)
  - ・自分がやっていることの方角性が間違っていなかったと思えました。
  - ・実際使われている教材と共に一緒に考え授業の進め方を勉強することができ、次回から役立てることができると思えます。
  - ・日本語学校で成人に教えることとの違い、子どもへの導入、文型の提示の仕方など、とても参考になりました。
  - ・発展活動の具体例が大変参考になった。子どもに自信をつけるために非常に有効だと思った。
  - ・文法積みあげ式とは違い、生徒ひとりひとりに合わせた進め方が必要なんだと感じました。
  - ・大変勉強になった。
  - ・講師の先生が実際にやられた経験に基づいた話だったので、実際のやりとりや場面が想像しやすかったです。大人への指導にも参考になります。
  - ・「文法積みあげ式の教え方が基本」と教わっていたので、子どもにこの教え方が通じないことがわかってよかったと思えました。
  - ・算数文章題のキーワードや受身形のプリントなど、役に立ちそうです。
  - ・体験談がとても参考になりました。
  - ・発展の仕方など、とても参考になりました。
- (対人援助者として)
- ・子どもが日本で生活するうえで問題はまだまだ山積みです。行政しかできないことが多いが、自分ができることを少しずつやっていきたいと思えます。
  - ・ともすれば一方方向になってしまう日本語指導に双方向であるということをあらためて思い出させられました。
  - ・子どもたちに今、何を上げてられるか、何が必要かという問題をより深く知ることが出来ました。まだ考えるべきことが多くあると思えます。

- ・日本語を単に教えるのではなく、日本語を教える、又は学ぶ背景というものを大事にしなくてはと思いました。
  - ・日本語を学ぶ意識(あの人に伝えたい。だから日本語を学びたいと思う気持ち)を持たせるような状況を少しでも作りたと思いました。
  - ・日頃、感じていることをみんなで話し合うことができ良かったです。福岡市ではまだ取り組んでいない活動を教えていただき、私たちの活動がもっと大きな視野で考えて行ける者になることの示唆を与えられました。
  - ・個人の力ではなかなか実現しにくいものを、こういった学習会の中から発生させたらいいと思います。
  - ・外国人への働きかけが、日本人(日本の社会)のためにもなることに気がついた。
  - ・自分の地域で外国から来た子どもたちの日本語指導、居場所づくりなど、具体的にどう拡げていくか、ヒントをいただきました。行政をどう巻き込んでいくか、考えていきたいと思いました。
  - ・その人の持つ背景、そして社会の現状を深く理解した上で外国人を支援すること、日本語を教えることの大切さをあらためて学ばせていただきました。
  - ・日本語を教えていて、どうしても目の前の現実だけに気を取られてしまい、そういう大切なことを忘れてしまいがちになってしまうことを反省し今後の活動につなげていきたいと思っています。
  - ・日本語だけでも、居場所づくりだけでも不十分。ひとりではフォローできない。いろいろな力を持った人が関わっていく必要があるんですね。
- <疑問・質問など>
- ・小学高学年と中学1年生を担当している。上達が速いので、テキストに悩んでいます。
  - ・学校の校長先生、担任の先生が日本語指導員にどのようなことを求めているか、話を聞いてみたい。
  - ・低学年の文型導入、練習を聞きたいです。
  - ・学力保障について、もっとききたいです。(とよなか国際協会の田中先生の取り組みについて)
  - ・出身国によって、指導に違いがあるのか、あれば指導のポイントを知りたい。
  - ・福岡以外の取り組みを、当事者から聞きたい。いろいろ知りたい。

## ② 実施主体からの研修内容結果評価

受講生のアンケートや感想、実際にまた開催してほしいという声も聞き、好評であった。指導法や教材の紹介など、すぐ使えることへの要望が多く、日本語学校で教える時とは異なり、小中学校での指導、ボランティア教室の指導に関わっている多くの方が模索中であることが感じられた。また自己満足ではなく、目の前の子どものためによりよい指導をしたいという思いも感じる事が出来た。スキルだけでなく対人援助者として

の役割も理解してもらえた手ごたえがあった。

今回の研修には熱心であったが、若干すぐに使える教材、指導法、対応の仕方など、すべて外から提供されるのを求める面が見うけられた。今後の課題である。

### ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・日本語を母語としない子どもたちのためのハッピースクール(日本語指導、学習支援)の発展
- ・外国人の日本語指導者養成(定住外国人対象)
- ・年少者のための日本語指導者養成

## (11) 事業の成果

### ① 他事業との連携

福岡市教育委員会の日本語特別指導員への研修の提案  
生活者としての外国人支援団体への協力(日本語指導)

### ② 研修後の人材活用

福岡 YWCA ハッピースクール(日本語指導、学習支援)へ登用  
生活者としての外国人支援団体への紹介(日本語指導)  
ボランティア教室への紹介  
福岡市教育委員会の日本語特別指導員への登録を促す(未登録で希望者のみ)

## (12) 今後の課題

・小中学校での指導において、どこまで学校側の協力が得られるか、どのようなことが望まれているか、年少者日本語の学びの場がない、それらに悩んでいる指導者が多いことがわかった。教育委員会に登録後、研修(講演と講座が2010年度は2回)はあるが、そのことに関して明確なものはないようである。教育委員会に日本語指導員の研修の充実、立場の明確化などを働き掛けていきたい。

・講座の中で、すぐに使える教材、指導法、対応の仕方など、すべて外から提供されるのを求める面が見うけられた。経験の中から学習者に応じた指導法を考える能力、指導者としての応用する力を養成することにも気付く、講座内容を検討していく。

・年少者の日本語指導について、要望が非常に高いことがわかった。今後も引き続き実践につながる学びの場を提供したい。年少者への日本語指導の場(福岡 YWCA ハッピースクール)の実績を活かして、来年度も継続して開催し本事業に携わりたいと考えている。

## 日本語を母語としない子どものための 日本語指導者養成講座



日本語を母語としない子どもたちが、地域の小学校中学校で増えています。

福岡市では日本語指導員の日本語取り出し授業が実施されています。大人への日本語指導とは異なる子どもへの指導は課題が多く、指導員やボランティア教室でも、ちゃんと子どもへの指導を学びたいとの声が上がっています。

また多くの日本語を母語としない子どもたちは、様々なストレスや環境によって「勉強」へ向かうモチベーションを奪われやすい状況におかれています。日本語指導を通じて、そんな子どもたちと接する日本語教師・学習ボランティアには対人援助者としてのスキルが必要です。子どもたちのために、実践につながるこの講座でともに学びませんか。

対 象：年少者の日本語指導に関わっている方

日 時：連続5回 2010年11月27日～3月12日（いずれもタイトルは仮題）

第1回 2010年11月27日（土）15時～18時

\*日本語指導の基礎知識/年少者日本語の現状

講師：栗山 昌子さん（元福岡女学院教授）

第2回 12月11日（土）15時～18時

\*日本語学校との違い /講師：栗山昌子さん

第3回 1月22日（土）15時～18時

\*導入・教材紹介、使い方 /講師：栗山昌子さん

第4回 2月12日（土）15時～19時

\*小中学校の取り出し授業と初期指導

講師：和田 玉己さん（九州大学留学生センター非常勤講師/文部科学省委託「外国人児童生徒の総合的な学習支援事業」研究推進委員）

第5回 2月26日（土）15時から19時

\*子どもたちが安心して勉強するために

講師：富江 真弓さん（財団法人とよなか国際交流協会 専門職員）

第6回 3月12日（土）15時～18時

講師：佐藤 倫子さん（福岡教育大学非常勤講師/開発教育ファシリテーター）

参加費：無料/定 員：25名/ 後援/福岡市教育委員会

申込：YWCAにメール・FAX・TELで開催日の3日前までにお申し込みください（裏面参照）

主催・開催場所：（財）福岡YWCA

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-8-15 e-mail:[fukuoka@fukuoka.ywca.or.jp](mailto:fukuoka@fukuoka.ywca.or.jp)

TEL 092-741-9251 \*FAX 092-712-2515（休館/日・月・祝）

★この事業は、文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の委嘱事業です。